

## 令和5年度 第2回鎌倉市食育推進会議 議事概要

- 1 日時 令和6年(2024年)1月19日(金) 17時30分～18時50分
- 2 会場 鎌倉市役所 全員協議会室
- 3 傍聴者 2名
- 4 出席者 鎌倉市食育推進会議委員 計8名  
中村丁次氏(会長)、河内公恵氏(副会長)、伊東京子氏、岩谷葉月氏、加藤順子氏、  
富田弘美氏、原勇司氏、牧田知江子氏  
事務局 鎌倉市市民健康課 石黒課長、押山補佐、石井係長、片瀬係長、門田係長、沖、  
水島、長瀬

### 5 議事内容

事務局：本日の会議成立について報告。傍聴者2名。

中村会長：傍聴者の入室を認めるか確認。

(委員の賛同を得て、傍聴者入室)

中村会長：(開会のあいさつ)

昨今、国際的な状況も地球環境も大変深刻である。例年お正月は新聞の紙面に夢のある特集が組まれるものだが、今年は全くなかった。地震もあり、こんなに不安なお正月は珍しい。

栄養や食事に関しても、今までは豊富な食べ物が存在していることを前提に、どうやって食べるものを選択するかという視点だったが、そう悠長なことを言っていられない状況になるだろう。培養肉や昆虫食という選択肢も現実的になってくるかもしれない。

昨年11月にアフリカのマラウイへ行った。世界最貧国で、人類発祥の地とされている。どんな食生活をしているのか、大変関心があった。

ホモサピエンスはジャングルで生活しているときは草食で、サバンナに生活圏を拡大したときに肉を食べるようになった。また、人類は最もよく捕食された動物で、よく食べられたから心配性になった。さらに人類は食いしん坊な動物でもある。人類はなんでも食べてきたから、世界のいたるところに存在することができている。例えば、南米北米には象がいらない。なぜかという、大型動物は人類が食べつくしたからである。

人が何を食べるかは、生物多様性や環境問題や食料問題に直結する。2050年には食糧危機に直面するだろう。真剣に考えないと、アメリカ大陸から象が消えていったようなことが起こりうる。

食育がだんだんと受けなくなってきたが、何を食べれば健康に幸せになれるか、というのが本質で、正しく何を食べるべきかという教育はずっとやっていかないといけない。

### 【議題1 計画評価及び策定のためのアンケート調査の内容について】

事務局：参考資料「鎌倉市健康づくり計画及び第3期鎌倉食育推進計画に関するアンケート調査の概要

について」参照。前回の会議でも説明させていただいたが、少し時間が経ったので、再度簡単に説明させていただく。

このアンケートの目的は、健康づくり計画と食育推進計画の評価及び次期計画策定にあたって、市民の健康や食育に関する理解や関心、健康づくりや食育推進に関するニーズなどを把握し、今後の事業の展開や方向性を定める基礎資料とするための実態調査を行うこと、また、調査結果と各種データとを比較することによって、鎌倉市の置かれている現状を把握することとしている。なお、健康づくり計画と食育推進計画は、現行の計画期間がどちらも令和7年度までとなっており、令和8年度の計画改定にあたっては、両計画を一体的に策定する予定となっている。

アンケートは、年代によって対象を7つに分けて抽出するとともに、質問も年代によって分けて作成する。全年代に向けて郵送で質問票と紙での回答用紙を送付し、紙回答を希望する方は返信用封筒での回答、電子回答を希望する方は記載されているQRコードからアクセスして回答を行っていただく。アンケート業務については、「鎌倉市健康づくり計画及び鎌倉食育推進計画の一体的策定支援業務」として、計画策定支援業務と合わせて委託で実施する予定。業者選定は公募型プロポーザルで行い、令和6年度にアンケート調査、令和7年度に計画策定支援、という2カ年の契約で実施したいと考えている。

次に、アンケート内容について、資料1『『令和6年度 鎌倉市健康づくり及び食育についての意識調査』質問項目案』参照。この資料はすでに何回か見ていただいているものだが、前回から少し修正を加えている。具体的には、夏に実施した第1回健康づくり計画推進委員会の方で少し修正のご指摘をいただいた。資料では、下線や見え消しにしてある部分である。委員からは、質問と答えの単位が違っている、質問内にカッコ書が多用されていて読みにくい、といったご指摘があった。

例えば、通し番号31、献立についての質問だが、以前の質問は「お子さんの食事の献立に、主食(ご飯、パン、めんなど)、主菜(肉、魚、卵、大豆製品を材料にしたおかず)、副菜(野菜を材料にしたおかず)がそろっていますか。」というかたちで、一つの質問の中に()が3回出てきていた。ご指摘を受け、「お子さんの食事の献立に、主食、主菜、副菜がそろっていますか。※主食：ご飯・パン・めんなど、主菜：肉・魚・卵・大豆製品を材料にしたおかず、副菜：野菜を材料にしたおかず」といった形で説明は※で補足するように改めた。その他の部分についても、なるべく分かりやすくシンプルな表現に改めた。なお、質問内容自体を変更したものはない。このアンケート内容については、今回の会議で確定したいと考えているので、気になる点等あったらご意見いただきたい。

(質疑応答)

河内副会長：資料1について、通し番号49は、3歳児の調査で大人に子どものことを聞いていると思うので、ほかの質問項目同様、頭に「お子さんが」をつけた方がよい。

事務局：ご指摘の点、修正させていただく。

伊東委員：小学6年生と中学3年生の質問について、スマホやゲームの使用時間を聞いているが、通塾についての質問がないのは、今の子どもの生活実態に合っていないと思う。今の子どもは塾にとっても時間を割かれているので、そういった質問は避けて通れないのではないかな。

原委員：夜の9時頃まで塾で、その後夕食を食べるといった話も聞く。

伊東委員：ちょうど夕食の時間にかかっており、家族で食事をとるといった食生活にも影響があると思う。

事務局：他課で行っている子どもの生活についての調査に同様の項目がないか確認したい。あればそのデータを分析に流用できる。もしなければ、今回の調査に入れるか検討したい。

**【議題2 健康づくり計画推進委員会・食育推進会議の令和6年度以降のスケジュールについて】**

事務局：資料2「健康づくり計画推進委員会・食育推進会議の令和6年度以降のスケジュールについて」参照。先ほども説明させていただいたとおり、令和8年度からの新たな計画においては、健康づくり計画と食育推進計画を一体的に策定する予定となっており、それぞれの審議会についても一本化する予定である。当初、計画改定後の令和8年度から一本化する予定としていたが、計画改定の際には一つの委員会で協議していただいた方が意見が集約しやすいため、一本化する時期を一年ほど前倒ししたいと考えている。

それぞれの委員の現在の委嘱期間は、健康づくり計画推進委員会が令和6年4月まで、こちらの食育推進会議が令和7年6月までとなっている。そこで、食育推進会議の委嘱期間終了時に、健康づくり推進委員会の委員を一旦解職させていただき、新たな委員会を設置し、委員を委嘱する予定。その準備として、令和7年2月議会において、令和7年6月施行の新たな委員会の条例を制定し、その条例の付則で、新たな条例施行時に健康づくり計画推進委員会条例と食育推進会議条例を廃止することを明記するもの。途中解職することとなる健康づくり計画推進委員会の委員には、令和6年の募集の際に予めスケジュール等を示して募集し、解職についてご理解いただきたいと考えている。

**(質疑応答)**

牧田委員：食育はどのようなものをどういうマナー（文化）で食べていくかということだと思う。一方健康づくりというと、歩くことなど体を動かす方に重点があるように思う。

まとめることに反対ではないが、健康づくりを食文化等も含めた広範囲なもの、環境的なことも含めたものにしてほしい。

一緒にすると焦点がぼやけることが懸念されるので、この計画にどういう分野を含んでいくか、一本化の目的などを明確にしていく必要があると思う。また、計画の目的を明確にしないと、現計画からこぼれていく部分があるのではないかな。

中村会長：今のご指摘はとても重要な視点である。

食育は、食の環境・文化・マナーという意味合いだったが、今はもっと様々な問題につながっている。アジアやアフリカでは、裕福になるに伴って食文化が崩壊している。肥満者が増え、糖尿病患者も増加し続けている。

日本は食事の欧米化を止められたから長寿国となっている。なぜ日本はうまく止められたのかと質問されるが、学校給食や食育が果たした役割は非常に大きいと感じている。

あんぱんが良い例で、欧米のパンに日本のあんこを組み合わせ、伝統文化を守りながら栄養価の高い食を作り上げた。また、他国では食料配給時に暴動がおこるが、日本は秩序を守って並ぶ。こういったことは健康とは関係ない、食育というカテゴリーの文化・マナーであり、これからも守っていく必要がある。

事務局：食育推進計画と健康づくり計画を一体化するというのは、一冊の冊子にまとめるということで、食育という言葉や項目をなくすわけではないので、ご理解いただければと思う。また、審議会も一本化し、委員の総人数は現在より減るが、食育分野の委員にも当然一定数入っていただきたいと考えている。

### 【議題3 その他】

事務局：新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、市民健康課の事業にもいくつか動きがあったので、食育に関連する部分についてご報告をさせていただく。

まず、食育事業について報告させていただく。最近の鎌倉市の取組としては、コロナ禍で3年半ほど休止していた離乳食教室や妊娠期食事セミナーにおける試食を12月開催分より再開した。希望者のみとお伝えしているが、どちらの講座でも用意された分を完食する方が多く、試食できてよかったという感想をいただいた。特に離乳食教室においては、アンケートでも「実際の硬さが食べることによって理解できた」「水から茹でた野菜の甘さを知ることができた」などの感想をいただき、今まで以上に実践につながられる講座となったと感じた。

また先日、健康づくり応援団の一環として未就園児と保護者対象におやつ調理実習、実食を行った。子育て支援センターなどにおいて乳児期から関わりのあった親子同士が、コロナ禍では制限があり、同じ食卓を囲み食事をしたことがなかったが、初めてそういった場で食事を共にしたため、とても嬉しいし、いつもより子が良く食べているというお声をいただいた。

このように実食を取り入れることは食育事業において大変有用であるため、来年度以降は実習や実食を盛り込んだ事業を展開していきたいと考えている。具体的には学童保育での食育事業の拡大や幼児食育事業で以前行っていたおにぎり作りなどを再開することを検討している。

続いて、子ども食堂の取組について報告する。鎌倉市内で子ども食堂や地域食堂を運営している団体が集う場として『みんなべ協議会』(＝みんなで食べるの略)が開催されており、市からは市民健康課の他、生活困窮対策の観点から生活福祉課、ひとり親支援の観点から子ども相談課が出席している。市内で複数の子どもの食堂を運営しているNPO法人ふらっとカフェ鎌倉さんが事務局を務め、現在14ほどの食堂が加わっている。会則などはこれから決めていくとの

ことだが、食堂同士の情報共有、物資の譲り合いや市からのお知らせができる場として、有用だと考えている。

みんなべ協議会からは、特に周知の部分で市の協力がほしいという意見があり、ホームページ更新を行ったほか、来年度はみんなべ食堂を紹介するマップを作成し、小中学生全員に配布することも予定している。

また、生活福祉課の方では、事務局のふらっとカフェに対して、地域食堂の新規開設サポートにかかる人件費やみんなべ協議会の運営や連絡調整にかかる人件費を支援する予定とのこと。将来的には各小学校区に一つの子ども食堂を設置したい、ということで活動をされており、市としてもできるサポートをさせていただきたくほか、食育事業の場としても連携していければと考えている。

(質疑応答)

原委員：アンケート項目に地引網体験や野菜の収穫体験をしたことがあるかという質問があったが、市でそういった事業をやっているのか。

事務局：高齢者いきいき課で3世代交流の事業で実施しているものはあるが、それ以外だとあまり実施していない。

河内副会長：子ども食堂について、今後各小学校区に設置したいとのことだが、現在から何%増やすのか。また、必要とする人が増えているのか、もしくは、周知のおかげで利用者が増えているのか。

事務局：何%という数字までは出せていない。

子ども食堂の活動していく中で、手伝える人が増えたりして活動が広がってきていると思う。みんなべ協議会の事務局のふらっとカフェさんは、新しく食堂を始めたいという方に最初の取っ掛かりの部分の支援はするが、地域の仲間で運営できるメンバーを探してくれと伝えているとのこと。

また、生活福祉課によると、生活困窮にかかる相談件数は確実に増えている。食料を配る事業も拡大している。潜在的に困っていた人たちが顕在化して、食堂に集ってきているのではないかと。

河内副会長：コロナの影響で生活困窮者が増えていたのであれば、今後戻っていくのではないかと。

事務局：生活困窮者が増え始めたのは明らかにコロナの影響があったと思うが、5類になってからも状況は元に戻っていない。どのように分析できるのか、生活福祉課にも確認したい。

冨田委員：子ども食堂のマップを小中学生に配布するとのことだが、保育園にも配ってほしい。全体的に家庭力が落ちているように見受けられ、困窮者でなくとも夕飯が作れない方などもいるの

で、ニーズはあると思う。

事務局：子ども食堂の方に聞くと、いらっしゃる方の方の方が困窮者というのは分からないそう。もちろん困窮者対策という面もあるが、それだけでなく、居場所という意味でも必要とされる要素があるのではないか。

【各委員からの現状報告等】

加藤委員：糖尿病クリニックで働いている。患者さんから相談を受けたのだが、大船周辺の農家さんが集まって、朝採れ野菜の販売をされていて、案内リーフレットを作ってデータをダウンロードもできるようにしたが、もっと広く知ってほしいとのこと。アナウンスできる方法について何か良い方法があればと思う。

牧田委員：お金をかけないで発信するには SNS が一番適している。販売している時にすぐアップしたり、動画を上げたりすると反応がよい。インスタや X などいろいろな媒体があるが、やり続けられれば広がると思う。

伊東委員：本日お休みされているが、安齋委員の安齋農園も敷地内で野菜を販売されている。野菜用の自動販売機を設置されていて、口コミで聞いて買いに来る人がたくさんいるそう。常設だとそういう形で広がりやすい。不定期開催なら、やっているときに即時に発信するのがよいと思う。

岩谷委員：管理栄養士をしている。この会議に参加する前は、食育といえば病気にならないための食事指導だと思っていたが、皆さんの議論を伺い、環境や経済なども絡むとても幅広いものだと知って勉強になった。

伊東委員：食育は子どものものだと思っていたが、年齢問わず関りがあると勉強させていただいた。自分の子どもがスポーツをしていたため、身体づくりのために食を勉強した。子どもが中学生のときは昼食の時間が正味 10 分程度しかなく、食べる環境に疑問を感じた。中高生が食事をしっかりとれる環境整備をフォローしていきたい。

牧田委員：地元でかまぼこの製造業を営んでいる。

今、食を取り巻く環境が激変している。今年の夏は暑くて水温が高く、魚が取れなかった。そのために廃業する業者もあつたくらいである。

環境の変化は非常に深刻で、食を考えるうえで、環境のことを考えないわけにはいかない。人工肉等で食を量的に満たすことはできるかもしれないが、何をどう食べるか、環境を考えるとや培ってきた食文化を次の世代に伝える場を作っていないといけないと考えている。

今年の 11 月、建長寺の元総長が「鎌倉で食を学ぶ会」を立ち上げた。伝統食を学びながら未来の食を考えようという会である。月一回第 3 火曜日に開催しているので、興味がある方がい

たら、ぜひ参加してみしてほしい。

原委員：今年1月4日、鎌倉漁協が近隣の他港と合併し、「湘南漁業協同組合」となり、鎌倉漁協は鎌倉支部となったので、お知らせする。

食は大事だと思う。結婚後、三食しっかり食べて早寝早起きしたら、体重が減って健康になった。

親族が教会で子ども食堂をやっている。先ほど説明があったみんなべ協議会の取組などを伝えたい。

富田委員：保育園で保育士をしている。このような会議の場は普段聞けない話が聞けて刺激になる。

保育の現場は、コロナ禍の影響を大きく受けた。子どもたちは黙食が習慣づいてしまって、保育士が何も言わなくてもしゃべらず食べている。また、保育参観ができない時期があり、保護者が他の子どもを見る機会がなかったため、自分の子どもの発達状況がこれでいいのかということ認識しにくいようだ。お餅つきも今年ようやく再開できたが、前と全く同じやり方はできなくなってしまった。

食を通じて子どもたちに何を伝えていけるか、考えていきたい。

河内副会長：大学の栄養士養成の学科で教えている。伝統的な食文化についても教えなくてはいけないと思うが、国家試験に出ないため、時間を取りにくい。SDGsについて何とか授業に取り入れていきたい。

学生たちは高齢者施設に就職することも多く、行事食を作れなくてはいけないが、伝統的な食を知らない世代になっている。家庭環境が変わってきていることを感じる。

コロナ禍が落ち着いたため、この夏は食育イベントに声がかかることがとても増えた。

中村会長：今年の後半は日本中に栄養・食育ブームが巻き起こると確信している。NHK朝の連続テレビ小説の主人公が栄養士で、今人気の橋本環奈さんが演じる。NHKのディレクターが、食というのは重要なことなのに、皆正しい食事のあり方を知らない、それを伝えていきたい、ということを書いて、協力しようと思った。台本も少しずつ出来てきているので、楽しみにしてほしい。

以上